

## プレ「知のオリンピック」オンライン大会発表予稿調査票 (Ver. 3.1)

【評価基準】①新規（奇）性、②論理性、③有効性、④持続可能性、⑤社会貢献性

【SDGsとの関連】当大会6つの競技分野毎に設定しているSDGsを意識して予稿をお考え下さい。

項目	発表予稿	
発表者氏名	尊田京子（そんだきょうこ）	
研究クラスタ名	グローバルとローカル 国際医療の知	
発表テーマ	国際的パートナーシップによる新しい介護施設事業 ～最期まで日本へ戻らない選択肢～	
参加方式（右の候補から選んで下さい）	メイン会場参加*恐れ入りますが当日13時半に会場を出ます	
<b>【序論】</b> 1. 現状に対する課題認識 （どのようなイノベーション等の課題に取り組むのか）	日本は世界で最も人口高齢化が進み2025年問題、介護難民、老老介護、認認介護、孤独死、介護離職など、介護分野の課題は山積している。国家としての巨大な課題でありイノベーションが必要な分野であると言えよう。	
<b>【背景・思い】</b> 2. イノベーション課題解決のための思い・背景 （何故、その思いに至ったのか）	JICA等で介護企業・介護施設の海外展開支援を行ってきた。しかし、日本人はいよいよ最期を迎える前に日本へ帰国し介護施設に入所するか病院へ入院する。これでは日本国の介護負担は一向に減らないし家族の負担も減らない。	
イノベーション課題解決方法の検証	<b>【価値等の設定】</b> 3. 新たな価値等の設定 （対象とする顧客や新しく生まれる価値等の設定）	介護を必要とする本人、またその家族が、国境を超えて最期まで看取ってくれる介護環境を得ることで、介護を必要とする本人・家族の負担が軽減され、日本国の負担も減ると共に、海外現地の雇用創出と現地の殖産興業になる。
	<b>【ニーズ】</b> 4. 価値等を高めるためのニーズの明確化（対象とする価値・市場ニーズ（顕在・潜在など）の明確化）	日本で介護を必要としている人口総数約658万人のうち65歳以上の高齢者（内訳：65～74歳約73万人、75歳以上572万人（厚労省2018年度））が対象である。
	<b>【システム】</b> 5. ニーズ対応システムの設計等 （上記ニーズに対応する仕組みやシステムの設計等）	日本から比較的近く、親日的で、同じアジア人である東南アジアのタイで、元気な間は楽しくのびのびと暮らし、最期は手厚い看取りまで対応可能な終身の介護施設を増やす。タイ以外の親日アジア国での展開も可能である。
	<b>【結果・新たな事業価値】</b> 6. 当イノベーションにより生まれた結果や新たな事業価値 （上記新システムにより生まれた結果や新たな事業価値）	日本の介護は世界的に優れていると言われながら、海外展開を試みた介護事業者で明確に成功した事例はこれまでない。今回の事例を参考にして日本式介護の手法・ノウハウを盛り込むことで、日本人向けの海外介護事業を創出し、東南アジアに介護という新市場を開拓できる可能性がある。
<b>【結果の考察】</b> 7. 当イノベーション等の結果考察 （当イノベーション提案・研究により生まれた効果や今後の課題等に関する考察）	現在では在外邦人は年間131万人に上る。日本人の海外赴任は日本の高度経済成長と共に1960年代から活発になりその後も継続した。彼らは現在、海外暮らしに抵抗のない高齢者となっている。海外で介護を受けることを受け入れられる素地がある人口は十分に存在すると言えよう。	